



赤松のつなぐ

～思いやる心でつなぐふれあいのまち赤松～

第8号
赤松校区社会福祉協議会
赤松まちづくり協議会発行

赤松の防災体制前進

全11自治会に組織整う



▶災害に備え、市緊急防災課担当者も交え、協議を重ねる拡大役員会

10/3、赤松小で大規模訓練

赤松の11自治会全てに自主防災組織が整いました。すでに組織化していた西城、北堀端、東城内に続き、今年度二気に8町区が加わり、地域防災体制は大きく前進。繰り返す災害への備えがまたひとつ厚みを増しました。

赤松の11自治会全てに自主防災組織が整いました。すでに組織化していた西城、北堀端、東城内に続き、今年度二気に8町区が加わり、地域防災体制は大きく前進。繰り返す災害への備えがまたひとつ厚みを増しました。

自主防災実践本部

- 総務情報部長 (山田直輝)
- 消防連絡部長 (山田直輝)
- 消防連絡副部長 (西谷正司)
- 救出救護部長 (田中唯史)
- 救出救護副部長 (完全健次)
- 給食給水部長 (山田直輝)

本部 (山本浩幸)

- 副部長 (山本浩幸)
- 公使 (山本浩幸)
- 副部長 (山本浩幸)
- 副部長 (山本浩幸)

避難開始・誘導広報活動

- 避難開始 (山本浩幸)
- 避難誘導 (山本浩幸)
- 避難誘導 (山本浩幸)

避難所設置・生活支援活動

- 避難所設置 (山本浩幸)
- 避難所設置 (山本浩幸)
- 避難所設置 (山本浩幸)

組織化へ早速貢献

栗屋茂公民館長

今回、8町区に一気に自主防災組織が立ち上がった最大の立役者は、赤松公民館にこの春着任した栗屋茂館長。得意のパソコンソフト「エクセル」を使って組織のチャート図を作り、自治会長さんたちをサポート。パソコンは苦手でも、防災対応や人在情報には詳しい館長さんたち、ちがメンバーを当てはめ、あがりま

新公民館長「ブル回転」

4月に着任。区民館の仕事は初めて。でもそうは思えないほど速やかに地域に溶け込み、精力的に仕事の幅を広げ、業務をこなされています。新主事の山本浩幸さんは高木瀬、新栄公民館を経て赤松に。主事歴は15年。整理収納アドバイザー「1級」の資格も持っているとか。全館長の古賀洋さんは春日で、千住雅彦さんは久保泉公民館でそれぞれ活躍されています。

栗屋館長の出身は福岡で元電力マンとして活躍された技術系の人。関連会社のトップを勤めるなど、様々な要職を歴任されたところも大歓迎です。

青パト、赤松に配車

自治会長ら運転資格取得

子どもを狙った声掛け事案はじめ犯罪が増えています。まち協ではこの事態にも対処しようと青色パトロール車の配備を要望してきた結果、この願いが届き9月末、赤松に早送、自治会長やまち協り

10人が南警察署の講習を受け、運転資格を取得。今後は赤松小や附属小周囲の通学路などをパトロール、防犯活動を強化します。活用は防犯だけでなく、民生委員会やげんき部会で高齢者の送迎などに幅広く計画的に使っていきます。



▶赤松に配車された宝くじ号の青色パトロール車

タコライス大人気!

えがお食堂の今年度は2カ月おきに休まず活動を再開。最近ではコロナ感染が少し収まってきたことから、再び赤松公民館の厨房で



「えがお食堂」コロナ禍でも途切れず

調理。校区の皆さんに喜ばれています。作り手は赤松食改のメンバーを軸にまち協、自治会長や民生委員ら20人がお手伝いに駆けつけています。

▼中谷先生の指導を熱心に学ぶ参加者ら



「素敵な作品できた〜!」熱心にかご作り

いつときも目が離せない2歳〜3歳のちびっこギャングを抱えるママたちを対象に、「おたすけママさん」にお子さんを預け、料理やものづくりなどの趣味に興じてもらう「ぴよカフェ」。

5月・6月の連続企画でクラフトテープで作るバスケットに挑戦。参加した18人は、指導の中谷睦子先生の一言一言に耳を傾けながら黙々とかごづくり。2カ月にわたり4時間をかけ、高さ12cm、まち15cmの素敵な作品に仕上げました。(福岡由美子)

開催は2カ月おき(偶数月)第3土曜日。前回(8月)はタコライス。メキシコのタコスをヒントに沖縄県が郷土料理の1つにしたもので、野菜やマメが素材。「タコ入ったらんやっただの?」だったら欲しか!と言う方も含め好評でした。

次回10/30は「タコライス」

月30日。水鏡プロジェクト

校区民生児童委員会名簿 佐賀市社会福祉協議会 ☎32-6670 おたっしや本舗城南 ☎41-5770

◎会長	◎江口佳子(主任児童委員) ○西村邦昭(東水)、原田秋代(南水) ◆濱野京子(南堀)
○副会長	江口尚子、坂井洋子(北水) 森富代子(南水)/ 深川謙二 新道/ 西村律子(西城内)
◆会計	市丸康子、後藤美代子(東城内) / 田中みどり、藤瀬佐多子(中の館)

安西知子、井崎裕文(鬼丸) / 福田まろみ(北堀) / 荒金健次(与賀町) / 主任児童委員 西村香代子

会長 / 蘭晴男 副会長 / 本山正江、安西幸彦 会計 / 福岡由美子 事務局長 / 福田伸裕

松まちづくり協議会 役員体制 役員(上)と各専門部会長(下) ☎23-6002

親子ふれあい 秦慎一郎 / げんき須藤義仁 / あんしん貞富裕昭 / まなび永原光彦 / つながり福田伸裕

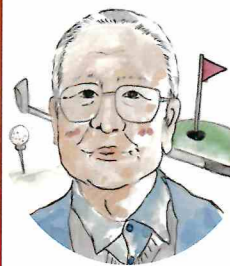
▶移転する県社会福祉会館(後ろ)。正面中央に建つ「蒼海伯副島種臣誕生地」の石碑。碑には兄の枝吉神陽の紹介はありません



枝吉神陽、副島種臣 兄弟の顕彰施設設置を 赤松まち協、知事に依頼

県社会福祉会館跡

佐賀の7賢人に兄弟で名を連ねる枝吉神陽と、その弟副島種臣。2人の生家跡に建つ鬼丸の県社会福祉会館が来年、移転新築されるのに伴い、赤松まち協は、この地に兄弟の「顕彰施設」を建てるよう山口祥義知事にお願ひしています。弟の副島種臣は明治新政府で内務大臣や外務大臣などを歴任。横濱に寄港していたペルー船中で奴隷にされた中国の人231人を解放し、世界から称賛されました。兄の枝吉神陽は「佐賀の吉田松陰」とも呼ばれる尊王倒幕を唱える「義経同盟」を結成。種臣のほかに大隈重信、江藤新平、島義勇、大木喬任ら他の賢人の多くがこの同盟に名を連ね、彼らのリーダーとして活躍しました。現在地に種臣の石碑があり、兄弟の顕彰施設が建つことで、子どもたちに、当時の佐賀人の活躍ぶりを教え、心に誇りを育てると期待しています。



赤松まちづくり協議会は2018年7月の設立から4年。校区のあらゆる組織が一体となったことで、それ以前の地域活動とはがらりと変化、様々な地域課題に新たな発想で、スピーディーに対応できるようになりました。

ただ私たちの活動が進む以上に周りの状況が変化。コロナのようなパンデミックに突如襲われ、気象災害も深刻化の一途。少子高齢

まち協法人化へ プロジェクトチーム

化もまだまだ進む一方です。これらに対処すべく昨年はソーシャルディスタンスが取れる行事「ドライブインシアター」に挑戦。集まって会議ができないなら、とスマートフォンやフェイスブックを勉強し、新しいホームページも完成しました。

しかし、こうした対策が進むほどに資金がかさむ課題も出てきます。事務局のふれあい部会が行政の助成金をもらうべく申請、報告作業を繰り返していますが、ここにも限界があります。

というわけで3年前から、県や市の助言も仰ぎながら「まち協の法人化」を検討してきました。高いハードルを超えるため、今回5人の自治会長と公民館長の6人のプロジェクトチームを結成。まち協と連携、情報を共有しながら、この難問に挑んでいきます。(赤松まち協会長・蘭晴男)

自治会長会 会長 安西幸彦(鬼丸)/副会長 吉川隆(南水)、宮崎和雄(北水)/会計 八田博(南堀)/蘭晴男(東城内)

熊谷正司(東水)/山田直好(新道)/田中唯史(中の館)/西村律子(西城内)/福田伸裕(北堀)/荒金健次(与賀町)

校区社会福祉協 常任理事	会長	福田伸裕	蘭晴男	粟屋茂	本山正枝	秦慎一郎	貞富裕昭
	副会長	江口佳子	安西幸彦	原田秋代	福岡由美子	永原光彦	須藤義仁



須藤義人会長を先頭に「街の便利屋さん」など新機軸の活動を次々に展開するげんき部会。今度は参加が少ない男性会員の問題解決へ「出前麻雀」に挑戦です。麻雀卓や麻雀牌を公民館に貸し出し、自治会ごとに楽しんでもらうという狙い。麻雀は面白いうえ、他のメンバーの手の内を推理するなど頭を使い、その上、指や腕で牌を扱うことで老化防止にももってこい。赤松公民館で展開する別のグループ教室も大変な人気です。(須藤義仁)



この麻雀卓、牌が貸し出されます

この麻雀卓、牌が貸し出されます

コロナ禍 鯨の門まつり、体育祭… 恒例行事相次ぎ断念の中

▶鯨の門祭りや水鏡プロジェクト開催の是非をめぐって議論を重ねるまち協役員や県職員ら



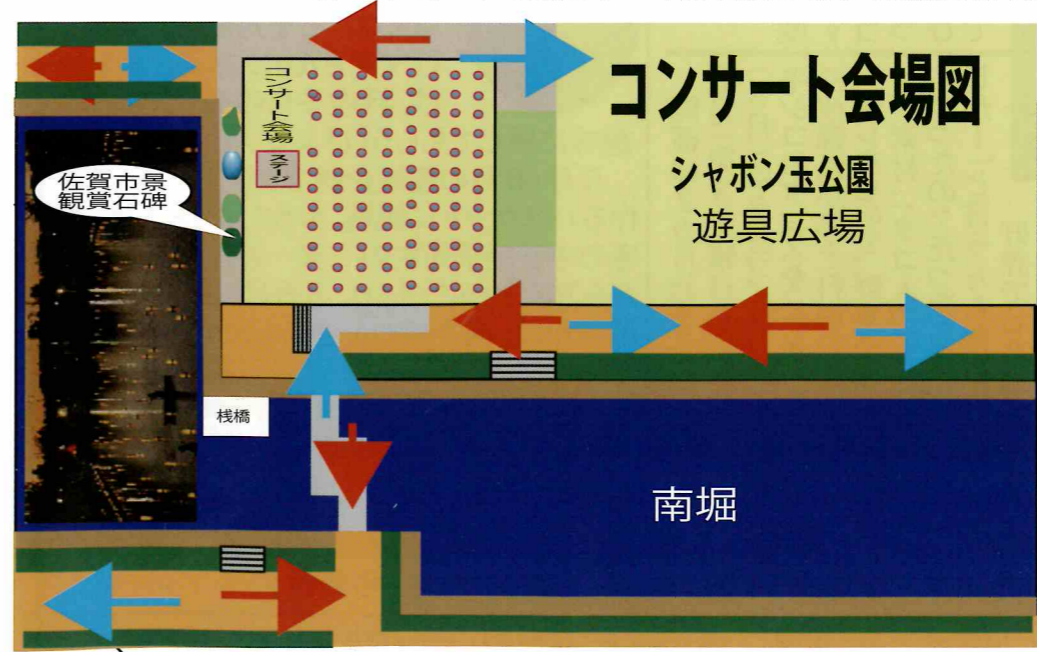
「おほり灯ろうまつり」に改称 ギターコンサートも計画



ギタリストの上野芽実さん

コロナ禍で多くの行事を中止にする中、佐賀城公園で開く「おほり灯ろうまつり」だけは規模を縮小してでも実施しようと、赤松まち協は準備を重ねています。当初は公園内の茶室「清恵庵」を使ってのお茶接待も予定しましたが、デルタ株による急速な

感染まん延で断念。その後、感染が収束の気配になったことでクラシックギターによるミニ野外コンサートを計画しました。九州屈指のギタリスト上野芽実さんを迎え、幻想的に浮かぶ灯ろうとの「セッション」を、3密に十分留意しながら実施します。



9月に入りようやく収まる気配になったコロナ感染。赤松まちづくり協議会は役員会などで協議を繰り返した結果、体育祭に続き鯨の門まつりも準備期間がないため中止を決定しました。ただ、県やサガテレビとともに実施する「さいこうフェスタ」(10月23日、24日)は開催の方向で準備を進めています。特に赤松が担う23日夜の「水鏡プロジェクト」は名称を「おほり灯ろうまつり」と変え、小規模ながらシャボン玉公園

今年から県の文化課に加え、観光課も実施舞台に加わり、このおほり灯ろうまつりが県を代表する風物詩に育っていきそうな勢いになりました。

今年から県の文化課に加え、観光課も実施舞台に加わり、このおほり灯ろうまつりが県を代表する風物詩に育っていきそうな勢いになりました。

水鏡プロジェクトは実施へ



赤松のいきなり

～思いやる心でつなぐふれあいのまち赤松～

第9号

赤松校区社会福祉協議会
赤松まちづくり協議会発行

食改、まち協、有志の皆さんが息もぴたりで手際よく作っていくえがお食堂の厨房(赤松公民館)



えがお食堂定着

コロナ禍で一度も休まず



持ち帰り弁当を取りに来た子どもたち 赤松公民館

子どもの貧困率が先進国で最も高い日本で、数年前から全国で一気に広がった「子ども食堂」。赤松でも2019年8月、子どもだけでなく高齢者などにも食事を提供する「えがお食堂」を開始しました。



2月のカレー弁当

変異を繰り返し、感染を上げ続けるコロナ禍の中、今年度も一度も休むことなく隔月で実施できました。

2月の「えがお食堂」は、校区自主防災会実践本部の炊き出し訓練を兼ね、19日に開催。コロナ感染まん延防止措置のため、会場での食事は今回も出まされず、十分な防止対策をとり、カレーを作り、肉まんを市から提供していただきました。

だいたいのビスコを、事前に申し込まれた200人に渡すことが出来ました。今年度の「えがお食堂」も昨年同様、終わらないコロナ感染のため、公民館で一緒に食べるのではなく、偶数月に希望者に届ける形で開催。お子さんには取りに来てもらい、高齢者や生活保護受給者には民生委員さんや自治会長さんらが届ける「赤松スタイル」で、一回も休まず年間に6回、つつがなく終わることができました。

校区内の飲食店にお願いしたこともありませんでしたが、食生活改善推進協議会や有志によるボランティア、校区社協からの補助など赤松の多くの組織や大勢の皆さまの協力を受け、手作り弁当をお渡し出来ました。町区民のつながりの強さをあらためて実感し、感謝しています。

会長 / 蘭晴男 副会長 / 本山正江、安西幸彦 会計 / 福岡由美子 事務局 / 福田伸裕
松まちづくり協議会 役員体制 役員(上)と各専門部会長(下) ☎ 23-6002
親子ふれあい 秦 慎一郎 / げんき須藤義仁 / あんしん貞富裕昭 / まなび永原光彦 / つながり福田伸裕

「水鏡プロジェクト」改め「おほり灯ろうまつり」

最高の県知事賞に輝く

ギター演奏でムードも

県建築士会や建設業界が良好な住環境の手法となるようなまちづくりを顕彰する「佐賀の木・家、リニューアル、まちづくり賞」に「水鏡プロジェクト」改め「おほり灯ろうまつり」が

見事、県知事賞に輝きました。入念にコロナ対策を講じながら、開催にこぎつけた地域の努力が実りました。赤松は受賞に湧き、「いずれは県庁前のお濠まで灯ろうで埋め尽くそう」と意気を受けています。

大きくし、今年度、「おほり灯ろうまつり」に改称。月星を鏡のように映し出す濠の魅力を広げようと、今年も6月から毎月協議を重ね、水面の灯り管理を担うグループはカヤックも練習。小学生や書道教室の児童は700個を超す灯ろうに絵や文字をかいてお手伝い。今年初開催のギターコンサート会場までの観客誘導は高校生や外国人ボランティアが担当。地域を超えた行事へと成長しました。昨年の市景観賞受賞に続く快挙に赤松の熱気はますます高まっています。

残念！コロナ禍で活動大きく停滞

今年度も新型コロナに始まりコロナで終わりそうな状況ですが、「げんき部会」にとりましても残念ながら十分な活動ができないまま令和3年度が終わってしまいました。特に今年度始めた傾聴活動と訪問麻雀活動が思うようにできなかったのが大変残念です。また我々の中心的活動の一つ「きばろう会」は参加者にとって日常生活の一部になっているのに、そのリズムが狂ってしまい困っておられました。



「気ばろう会に参加することで人と会話ができ健康維持にもつながっているのに」と、本当に悔しそうに語るメンバーもいました。健康体操の筋力アップは一度休めばすぐ元の状態に戻ってしまいます。今回のコロナは高齢者の健康をも奪おうとしています。早く正常に戻り高齢者の皆さんが楽しく健康で安心して日常が来ますことを願うばかりです。(須藤義仁)



水面に浮かぶたくさんの灯ろうとギターの演奏。会場のムードは最高潮!

新年恒例の5社参り&史跡巡りで、ガイド役の永原光彦さんから島義勇の人物像を学ぶ参加者ら



枝吉神陽、副島種臣兄弟知る

赤松の新年皮切り行事「五社参り&史跡巡り」が1月9日、赤松スポーツクラブ・シヤチの主催で行われました。デルタ株がようやく落ち着きオミクロン株に置き換わり始めた時期。参加はいつもとよりちよびり少ない15人。天気はこれ以上ないほどの快晴。

5社参り、郷土史勉強、今年も

お宮参りはいつも通り佐嘉、松原、八幡、護国、与賀神社の5社。無病息災などを祈願した後、佐賀城公園周辺の「島義勇銅像」「観願荘(かいんそう)跡」「枝吉神陽・副島種臣兄弟生誕地跡」を巡りました。

まち協まなび部会の永原光彦会長が北海道開拓の父と呼ばれる島義勇と、かつて鬼丸から南堀端一帯に広がっていたという3万5千坪の庭園「観願荘」について説明。本丸ボランティアアイドの芹田誠さんが、七賢人の多くが名を連ねた結社「義祭同盟」のリーダーで国学者の枝吉神陽と、弟で外務大臣などを努めた副島種臣兄弟について、一人の卓越したリーダーシップぶりを、様々なエピソードを交え語っていただきました。この後、赤松公民館に帰り、抽選会などを楽しみました。

校区民生児童委員会名簿 佐賀市社会福祉協議会 ☎32-6670 おたっしや本舗城南 ☎41-5770

◎会長	◎江口佳子(主任児童委員)	○西村邦昭(東水)、原田秋代(南水)
○副会長	◆濱野京子(南堀) / 江口尚子、坂井洋子(北水) / 森 富代子(南水)	
◆会計	深川謙二(新道) / 市丸康子、後藤美代子(東城内) / 田中みどり、藤瀬佐多子(中の館)	
	西村律子(西城内) / 安西 知子、井崎 裕文(鬼丸) / 福田まろみ(北堀) / 荒金 健次(与賀町)	

佐賀城堀の貯水能力を確認するため水門を開ける市職員ら(南堀)



赤松の防災活動、コロナ禍でも粛々

役割分担徹底参考に

先進地・松梅に学ぶ

げんき部会

コロナ・デルタ株の感染が落ち着いた11月30日、あんしん部会はこの時期こそチャンスと、県内の防災先進地の松梅地区へ視察研修を敢行しました。

市内山間部に位置する松梅校区は、毎年のように土砂災害に見

舞われていることから「昨年、災害に強い地域をつくらう」と松梅防災会を設立。「空振りでんよかけん、まずは避難ばしゅい、避難ばしゅい」をキャッチフレーズに町区ごとの防災訓練を実施するなど、意欲的に活動を繰り広げられています。令和3年8月の豪雨による土砂災害の状況と、松梅防災会の取り組みについて岡城守本部長にお話を伺いました。



何よりも避難を優先し、訓練していると話す松梅防災会の岡城守本部長(左)と松梅公民館

堀の貯水能力調査

1月3月 雨季前に排水など確認

佐賀市河川砂防課と土木本事務所は1月末から3月にかけて、佐賀城お堀の水抜きを実施、その貯水能力などをあらためて調査しました。

調べたのは県庁前の北堀を除くすべての堀。調査を開始した1月26日には坂井英隆市長も参加、担当の市職員ら

の作業を指揮しました。調査の柱は①雨季直前にどこまで水位を下げられるか②事前排水はどれほど可能か③の2点。1月の調査では城南橋の水門を開け、5時間で水が3cm低下。3月調査では650時間で19cm、1万7000トンの貯水が可能であることを確認しました。



処理まで自動でできる電動トイレの使い方を学ぶ自治会長ら

新防災グッズの使い方試す

あんしん部会と自治会長さんたちは、市危機管理防災課とともに2月16日、赤松公民館で電動エアベッドや電動簡易トイレなど新しい防災用品の使い勝手などを試す訓練を実施しました。防災ベッドはつい最近までダンボール材が主流でしたが、電動で瞬く間に膨らむニュータイプが登場。市と地域が情報を共有しながらひんぱんに訓練を繰り返す必要性を確認しました。

八田江に強力ポンプ設置へ

自治会長陳情に市長言明



蘭会長ら赤松自治会長の陳情に答える坂井市長(写真左)市会議室

校区自治会長会の蘭晴男会長ら役員6人が11月29日 佐賀市役所に坂井英隆市長を訪ね2019年、2021年と相次いで赤松に深刻な被害をもたらした浸水対策として、赤松の河川のほとんどが流れ込む八田江川の排水ポンプを、より強力なものに切り替えるよう要望しました。

昨年の被害は、その2年前に比べると少なかったものの、床上浸水が19戸もあり、中には引越

越しを真剣に考えているお店もありました。

このため赤松では「ノーモア床上浸水」を宣言、この陳情活動へとつなげました。

坂井市長は、新型の強力なポンプへの更新とともに、佐賀城お堀の貯水能力アップで排水対策も強化すると説明、自治会長らを安堵させました。

この陳情活動には福井章司市議会議員も同席しました。

ペットと一緒に避難を！ 赤松小4年生がマップつくる

赤松小の4年生が、小学校体育館が災害避難所になったらという想定で、自分たちが考える配置図を3つのグループごとに作成。互いに、自分たちが考えた案の理由を説明し、意見を交わしました。児童たちが同様にこだわったのが、ペットとどう過ごすか。一緒にいたい



荒牧軍治館長の講演を聴くあんしん部会員ら(水ものがたり館)

けど、嫌いな人もいるだろうから、飼い主との距離をとったり、衛生面での対応に工夫を重ねていました。ほかに洗濯物の干し場や、体育館内を車いすが縦横無尽に動ける空間の確保など、大人が思いつかないアイデアもたくさん提案され、防災活動の参考になりました。

岡城本部長によると、町区ごとに訓練を積み重ね、役割分担を徹底この結果培われたチームワークのくだりは大変参考になりました。

この後、龍登園で昼食をとり、道の駅「そよかぜ館」で休憩。県が発行するたすけあいクーポンで買い物を楽しみました。午後、石井樋の水ものがたり館を訪ね、荒牧軍治館長の「佐賀市の内水ハザードマップの読み解き」をテーマとした講演を聴きました。それによると「市が発行する内水ハザードマップは、百年に一度ぐらいの大雨を想定しているが、地球温暖化で線状降水帯がひん発現状と大きく乖離してきた。現在の技術で災害を防ぐことはできないが、被害を減らすことはできる」というお話。私たちが暮らす佐賀の状況や、これから取り組むべき赤松の防災課題が、お二人のお話から再認識できたこと、参加者全員が確信しました。

自治会長会 会長 安西幸彦(鬼丸) / 副会長 宮崎和雄(北水)、西村律子(西城内) / 会計 八田博(南堀) / 蘭晴男(東城内)

熊谷正司(東水) / 山田直好(新道) / 田中唯史(中の館) / 吉川隆(南水) / 福田伸裕(北堀) / 荒金健次(与賀町)

校区社会福祉協議会常任理事 会長 福田伸裕 副会長 江口佳子、藤瀬佐多子 会計 原田秋代

蘭晴男、安西幸彦、栗屋茂、福岡由美子、秦慎一郎、貞富裕昭、須藤義仁、永原光彦